

■秦佐八郎 ドイツの師と共に、梅毒特效薬で世界初の抗生物質サルバルサンを開発、多くの患者を救い、医に生涯をかけた。

はたさはちろう

明治6年政変 1873＝ 島根県美濃郡都茂村で、酒造りをする豪農山根道恭・ヒデの子、14人兄弟の八番目に生まれる。

 腕白ながら好奇心が強く、小学校の時代から、兄弟の中で成績が優秀で、

 ・ ・ ・ ・ ・ 1880＝ 7歳：この年、フランス人シャルル・ルイ・アルフォンス・ラヴランがマラリア原虫を発見。

明治14年政変 1881＝ 8歳：

新体詩抄 ・ ・ 1882＝ 9歳：

国民之友始 ・ 1887＝14歳：岡山の親戚で、_代々医師の家系ながら跡取りを失った秦家から長女の婿前提で養子に迎えられ、

帝国憲法発布 1889＝16歳：益田町の私塾進徳教社で英語を学んだ後、徒歩で岡山に向かい、街中に下宿して、

帝国議会始 ・ 1890＝17歳：私立岡山薬学校(関西高等学校)に入学、

大津事件 ・ ・ 1891＝18歳：養父秦徳太が死去。卒業し、_関西随一の名門校第三高等学校(のちの京都大学)の岡山にあった医学部(のちの岡山大学医学部)に入学。学力は際立ち、教師からも一目置かれる存在になる。

日清戦争始 ・ 1894＝21歳：

日清戦争終 ・ 1895＝22歳：卒業。養父との約束を守り、その長女チヨと結婚。一年志願兵として東京近衛一連隊入隊後、

八幡製鉄始 ・ 1897＝24歳：岡山県病院助手となる。井上善次郎に内科学、荒木寅三郎から医化学と、かなり離れた二分野を学ぶ好運に恵まれただけでなく、才能を惜しむ両師の勧めで、荒木の師_北里柴三郎に学ぶべく、単身上京、

子規句歌革新 1898＝25歳：私立の_伝染病研究所に入所、世界的な細菌学の権威北里のもとで、研究を始めると、

Bushidou ・ ・ 1899＝26歳：*神戸で、日本で初めてペストの流行が発生、前年、助手に採用されていた野口英世渡米の後を受けて、官立になった伝染病研究所の助手となり、臨時ペスト予防液製造事務取扱、臨時検疫事務官を兼務する。

ピアノ国産化 ・ 1900＝27歳：

田中正造直訴 1901＝28歳：_2年先輩で帝大出の志賀潔が、フランクフルト・アム・マインの実験治療研究所でパウル・エールリッヒについて生物化学、免疫学を研究し始める年には、和歌山でも流行、現地に向かい、一人で対処、

教科書疑獄 ・ 1902＝29歳：この年、エールリッヒは志賀潔とともに、トリパノゾーマをのみ攻撃する色素誘導体を発見。

日比谷公園 ・ 1903＝30歳：国立血清薬院部長を兼任、

日露戦争始 ・ 1904＝31歳：_日露戦争には、三等軍医として従軍し、南満州各地の野戦病院で伝染病患者の治療に当たり、

日露戦争終 ・ 1905＝32歳：志賀潔が日本に帰国。_凱旋兵やロシア兵捕虜のため、似島検疫所に召還され、検疫にあたりながら研究も続け、陸軍式消毒法の基礎になる真空式ホルマリン消毒器も開発。大阪の陸軍予備病院で伝染病室および細菌検査室に勤務後、除隊となり、これら現場の豊富な経験を得て、伝染病研究所に戻った時には、

満鉄発足 ・ ・ 1906＝33歳：_入所以来の10年間に、ペストに関する十数篇の論文を著し、最後には、柴山五郎作と共に「ペスト予防法」を策定したことなどと合わせて、エース級の研究者に成長、ドイツ留学を許され、

韓国反日暴動 1907＝34歳：_ベルリンでの万国衛生および民勢学会で、北里の研究を代理発表する機会を得、質問攻めに苦労。_ロベルト・コッホ細菌研究所で、パウル・エールリッヒの弟子ワッセルマンの下、免疫の研究に1年間従事、

アヲキ創刊 ・ 1908＝35歳：トリパノゾーマ薬の発見に対し、パウル・エールリッヒが9人目のノーベル生理学・医学賞。_モアビット市立病院に移り、やはりエールリッヒの弟子ヤコビーの下で研究。両者から、エールリッヒの凄さを聞かされて、弟子入りを願望するようになり、ヤコビーの紹介を期待するも叶わなかったため、自ら手紙を書き、その返事を待つことなく、フランクフルトの国立実験治療研究所へ向かうと、エールリッヒはすでに、長年に渡って危険極まりないペストの研究と防疫をしてきた実績を評価していて、難題の梅毒化学療法の実験の共同研究者に選んでおり、隣接するエールリッヒの私設研究所ゲオルグ・スパイエル・ハウスで、原虫より困難とされたスピロヘータを殺すも人間は攻撃しない、人類初の魔法の薬づくりに挑戦、

伊藤博文暗殺 1909＝36歳：_科学者ベルトハイムが合成した砒素製剤606号と名付けられた試料の効果と急性毒性を、同僚研究者も驚く根気良さで繰り返し動物実験した結果、人体への臨床実験も許されて、ついにその劇的な効果が確認され、エールリッヒは直ちにこの薬の製造特許を申請し、同日発行された。

韓国併合 ・ ・ 1910＝37歳：*第27回ドイツ内科学会で、エールリッヒは新しい砒素化合物製剤606号の梅毒治療成果を発表し、秦と共著の論文「梅毒の実験化学療法」がベルリンで刊行されるや大反響となり、改名された「エーリッヒ秦606」を使用したという依頼が殺到、ドイツの製薬会社ヘキストは、ラテン語で“助ける”を意味するSalvareと“健康な”を意味するsalvasから、サルバルサンと名づけ、製造販売。コッホの臨終に立会い後、帰国。

大逆事件判決 1911＝38歳：この年のノーベル化学賞と翌年翌々年のノーベル生理学・医学賞の候補に挙がっていたという。

明治天皇没 ・ 1912＝39歳：_論文「螺旋菌病のヘモテラピー」で、医学博士号。

大正政変 ・ ・ 1913＝40歳：_日本結核予防協会設立に参画。鈴木梅太郎と協働し、_国産のサルバルサン製造に尽力するうち、

第一次大戦始 1914＝41歳：_伝染病研究所が文部省移管になったことに抗議して辞任した北里に従って、他の所員とともに総辞職。北里研究所の設立に参画して、部長になる。第一次世界大戦勃発で、ドイツからの医療品が途絶え、_医薬品の国産化をめざす「染料医薬品製造奨励」が成立し、一気に進捗、三共株式会社がサルバルサンの製造に成功し、アルサミノールの名で販売されるに至った。

ロシア革命 ・ 1917＝44歳：福沢諭吉の縁で、北里柴三郎が慶應義塾大学医学部を創立、初代医学部長、付属病院長となる。

本格政党内閣 1918＝45歳：

大暴落 ・ ・ ・ 1920＝47歳：*師北里に招かれ、慶應義塾大学医学部教授となり、細菌学、免疫学を講じる。

原敬首相暗殺 1921＝48歳：_極東熱帯医学会に出席のため、インドネシア・ジャワ・パタビヤに出張。

関東大震災 ・ 1923＝50歳：_アメリカ・ロックフェラー財団の招きで、同国とカナダの医事衛生視察。

 学生を善導すべく、グループ分けして諸教授が受け持った(補導会)の際には、学生を自宅に招いて、手塩にかけて育てた大菊、小菊の観菊会を催し、'菊を仕立てるには保護をしたり、春先、芽が伸びる頃にはいじめてやらねばならない。諸君は今、養分のたくさん要る時だ。御馳走はないけれども、みな平らげてくれ給え。それで補導会終わり'と言ったと伝えられるように、講義もユニークだったようで、

円本時代始 ・ 1926＝53歳：ドイツ帝国自然科学院会員に推される。この年医学部本科に進学した武見太郎は、秦の講義から強い印象を受け、大物の日本医師会長になった後も良く紹介、とくに'おれの言うことは5年経ったら古くなると思え、サルバルサンがまだ使われているのは、あとの人間が不勉強だからだ'という言葉覚えていた。

金融恐慌 ・ ・ 1927＝54歳：

共産党事件 ・ 1928＝55歳：ドイツで開催された国際連盟主催のサルバルサン標準国際会議に出席。

満州事変 ・ ・ 1931＝58歳：_恩師北里柴三郎が死去し、北里研究所副所長に就任。

国際連盟脱退 1933＝60歳：_帝国学士院会員に勅選され終身勲任官待遇を受ける。

二二六事件 ・ 1936＝63歳：

日中戦争始 ・ 1937＝64歳：

健保+総動員 1938＝65歳：_脳軟化症のため慶應義塾大学病院に入院し、没した。